緊急通達

関西地方委員会

6/15大学前・御堂筋デモに全力結集し、10・11日国学院導のヘゲモニーを確立せよ。

四、二八闘争からASPACに至る階級闘争の攻防の復興は日本階級闘争の革命的左翼にさらなる主体的展開を要請している。十・八以後のプロレタリア国際主義と組織されに暴力による階級闘争の系引は六八年十・二一東大闘争を経て、全国一〇〇大学にたぶべり、ストをもたらしつつ、一方、わが党の提起した階級的労働運動を総評指導部におしひろげ、その階級的団結の質を高めつつある。しかし、日韓条約締結以降、今日に至る過程でわが政権のもの軍事的負担を担つに至った日帝のアジア侵略が東南アジア市場を米帝と二分するに至った力関係を背景にアスパック体系会議における日帝の圧倒的ヘゲモニーの圧倒的確立は、米帝のベトナムにおける米軍二六五千の引揚げという軍事的後退、南ベトナム臨時革命政府の樹立という現実に直面して、従来の東南アジア侵略における経済、政治的対応から政治、軍事的対応を迫られていること。したがって従来自大地占の合併を頂点におしすすめられていた国内の社会的再編は、きびしく全体会的再編として、とりわけ政治の領域において一挙的、強権的におし進められることとしている。大学治安法、人事法等、今国会に目白おしに並ぶ帝国主義諸法、それを押し通すための強行的会期延長、四、二八国等に関する警察同、わが同盟に対する破防法適用、全国人事委員会に対する機動隊の常時出動、東大公判における裁判官忌避、戦後民主主義の一掃の貫徹を踏みにじる強権政治が行政、司法、立法、治安の全分野でこの半年の間に一挙的に進行しつつある。

この帝国主義の国内再編に対するプロレタリアート人民の自発的な抵抗は、革命的左翼の実力闘争に組織され、諸階層に深い分断を作りだしている。日帝の担いは革命的左翼のみならず、総評を軸とする「戦後革新勢力」の解体であり、社会帝国主義の再編である。東南アジア侵略の世界戦略をもって排外主義人の国民的統合を強権的に強行せんとする日帝に対して、社共の平和主義、議会主義、民族主義が無効であることはすでに明らかである。70年初頭に朝鮮支援を標榜として予想される日帝の海外派兵、軍事侵略の開始に対抗しうるのはプロレタリア国際主義と暴力革命の思想を現実の階級闘争に対決することなくしては敗北は必至である。社会党、総評による日帝による自からの解体は必然的な方向であり、問題は革命的左翼が左から解体し、その下部を反革命派に組織し、国際主義と暴力革命の質をもった運動として実現し、拡大するかである。その過程はすでに大学闘争のにっきりの中で現出しているでとく、権力と今や革命的左翼に真向から対決する反革命勢力として公然と資本主義の立場を開始した。しかし

が高揚する段階に入ったことを意味する。我々は地区における党派闘争を決定的に強めると同時にこうした段階に対応した組織体制＝中央集中体制と指導の貫徹、武装部隊を全党的に作りだしなければならない。6／15集会＝御堂筋デモはその最初の機会であり、この集会における各党派の結集力は以降の闘争における階級闘争を領導する党派の人デモニーを確定することは必須である。5／31の大衆組織集会における高校生の独行参加に端を発した絶叫的反戦派と日共との闘争は、全大阪反戦を貫徹的に解体する契機となった。6／15集会はその発言内容に端的に表われているように、単産青年部動員があるにもかかわらず、貫徹的には、スンド、中核、共産の人デモニーによって圧倒される。我々は赤人ル二000の結結集によって、この集会の圧倒的主流派として登場し、10＝11月中央行動闘争の貫徹に向け、それを領導する人デモニーをこの集会に結集する二000の反戦派労働者のうちにつくりだしなければならない。

〈メモ〉